

みやぎSDGs Farm



みやぎSDGs Farm

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、より豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGs Farm」の基幹プログラムです。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成するなど、2021年から河北新報社が運営しています。



詳しくはこちらから

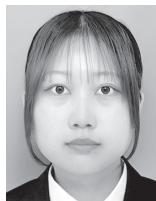
賛同企業
募集中!!

[申し込み・問い合わせ]

河北新報社営業局

TEL. 022-211-1318

☑ koukoku@po.kahoku.co.jp



小学生の頃からSDGsを学んできた私は、大学生となった今、日々の生活の中

で自分ができることを意識して行動しています。一人暮らしを始めてから、大学でも食品について学んでいるため、食品ロスを減らすように気を付けています。

一人暮らしはすべての家事や管理を自分で行う必要がありますが、その分、小さな工夫が生活の質を大きく変えることにも気づきました。

買い物では、賞味期限が迫った食品を選ぶ「手前取り」を心がけ、無駄な廃棄を減らすよう努めています。また、調理の際には野菜の皮や切れ端をスープに加えるなど、できるだけ食材を使い切る工夫をしています。

一人暮らしと小さな工夫

宮城大学 石田夏寧さん

います。こうした習慣は小さな努力に見えるかもしれませんが、資源を大切にすること、食料を大切にすることが、環境にやさしい社会を実現するために必要です。食品を選ぶときには輸入品だけでなく、地元産のもの意識的に購入し、輸送による環境負担を少しでも減らせるように心がけています。作りすぎを防ぐために自炊の量を調整することや、余った食材を冷凍保存して最後まで食べきることも取り組みの一つです。こうした小さな積み重ねが、自分の健康を守りながら、環境や社会に良い循環を生み出すと信じています。私はこれからも身近な暮らしの中で、持続可能な未来につながる行動を続けていきたいです。



祝「みやぎSDGsアンバサダー」認定！

「わたしのSDGs活動宣言」Vol.46



みやぎSDGs Farmでの活動を通じて、私は地域社会とSDGsとのかわ

わりを学ぶことができました。SDGsはエコや環境問題を中心に知られていると思いますが、その中に「住み続けられる街づくりを目指す」という趣旨の活動もあります。

私は日々の業務を通じて、宮城県をどんな人にも住みやすい県にしたいです。そして、より長く、持続的に生活しやすい県にできればいいなと思っています。

SDGsが多分に利他的な性格を含んでいると感じます。その性格ゆえに、活動に取り組み側にも余裕や、ゆとりがなければ広がっていかないのではと考えています。

広げたい、地域社会へSDGsの輪を

宮城県民共済生活協同組合 菊池佑輔さん

物価が上がり、社会情勢も複雑になっていく現代ではなおさらです。そんな状況で健康を崩した方の不安や焦燥は計り知れないものがあります。私は日々の勤務を通じて、宮城県にかかわる人々の生活の質を向上させ、安心・ゆとりをもたらしつつ、SDGsの広がり貢献したいです。ひいては、宮城県をより長く住みやすい環境にすることに努めていこうと考えています。



「SDGs」と聞く地球規模の大きな取り組みを思い浮かべがちですが、身近

な活動からも実践できることを、みやぎSDGs Farmを通じて学びました。弊社は地元のスポーツ球団・ベガルタ仙台をパートナーとしており、最近はお客さまの男女混合フットサル大会に参加しました。私は体を動かすことが好きで、この活動をSDGsと結び付けられないかと考えていました。

弊社では健康経営を推進しており、社内フットサルは健康維持やストレス解消、交流促進やチームワーク強化に役立ちます。これは目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標8「働きがいも経済成長も」に

SportsSDGs

タイハク 京亮汰さん

直結します。また、年齢や性別を問わず誰もが参加できる環境は、目標5「ジェンダー平等」にも貢献します。さらに、みやぎSDGs Farmの活動の一端として、工場周辺の清掃活動も始まりました。現在は地域美化を目的としていますが、今後はウォーキングと組み合わせたい健康づくり企画へと発展させたいと考えています。こうした活動は目標11「住み続けられるまちづくり」にもつながります。



おめでとうござります!!